

令和 5 年度 学校評価書 (計画段階・実施段階)

福岡県立福岡県立糸島農業高等学校

自己評価 学校運営計画(4月)
学校運営方針
昨年度の成果と課題
【成果】
【課題】
評価項目 具体的目標 具体的方策 評価(3月) 次年度の主な課題

学校関係者評価
自己評価は
A: 適切である
B: 概ね適切である
C: やや適切である
D: 不適切である
項目ごとの評価 学校関係者評価委員会からの意見

農 務	・学科の特色を明確化し、魅力ある学習活動の実施と設備の充実に取り組む	・月一回の農務部全体会を実施し、各学科の情報共有と学校の発展に向けた協議を行う。 ・各学科の特色を具現化するためのロードマップを作成し教育内容・活動及び施設の段階的な調整を行う。	B C	B	B	学科の目標・特色をより明確化し、外部との連携を精選しながら効果的かつ魅力ある教育活動を行う。
	・地域、産学官との連携を強化し学習活動に関する積極的な広報活動を各学科で取り組む	・商品開発や技術開発に向けたプロジェクトの取り組みと、月一回の販売活動によるマーケティングやプロモーションを行う。 ・SNSを活用した魅力ある学習活動の情報発信と農場におけるICTを活用した授業展開を行う。	A B			A
人権・同和教育	・人権・同和教育を推進するため、個別の人権課題を中心に、差別の現実学ぶ。	・人権・同和教育・生徒支援委員会を毎月開催する。 ・コミュニケーションスキル向上の内容を取り入れる。	A C	B	B	人権・同和教育・生徒支援委員会を継続して定期的に開催する。コミュニケーションスキル向上のための資料を集め、各学年に提供できるようにする。
	・本人の責任ではない理由で修学が困難な生徒を支援する。	・問題の種類に応じて、校外の専門機関との連携を深める。 ・生徒が発する信号に対して、全職員がアンテナを高くする。	A B			B
第1学年	・あいさつ、人の話を聴く姿勢、コミュニケーション能力の向上を図る。	・学年等で集合する際に、黙想し静かに待機することを徹底させる。 ・ソーシャルスキルトレーニングを一年間継続して行う。	A B	B	B	・学年集会時だけでなく各HR、授業など日常生活での挨拶や人の話を聞き理解する能力の育成。 ・安易な遅刻、欠席を減少。
	・進路目標を早期に設定させ、基礎学力の向上を図る。	・進路の目標設定を細かく行うとともに、自学ノートを活用し家庭学習を全くしない生徒を20名以下にする。 ・認知機能強化トレーニングを一年間継続して行う。	C B			B
第2学年	・基礎学力の向上と活用	・欠点取得者への継続した指導を学年全体で行うことで、原級留置の生徒を0にする。 ・進路実現に向けて資格取得に向けた講座に積極的に参加させる。 ・朝トレでの新聞の切り抜き等を読ませる回数を多く設定する。	B A A	A	A	家庭で学習をする習慣がついていない生徒が多い中、進学や就職に向けた基礎学力の向上や社会の変化に対応できる考え方、能力を身に付けさせる取り組みが必要。
	・社会人としての生活習慣を養う	・挨拶、身だしなみ、授業に取り組む姿勢について、自らが判断し行動することができるように指導する。 ・期限内に提出物を出すよう声かけを行い、提出できなかった生徒に関しては居残り指導を行い、必ず提出させる。 ・インターンシップには希望企業で実施できるように新規企業も視野に入れ準備する。	A A A			A
第3学年	・学校行事において中心的な役割を担わせ、企画力・主体性・指導力などを養成する。	・各種行事や活動時は全員が参加するために確実に一人一役を担わせる。 ・HRや学年集会などで生徒を主体として進行や話をする場面を設定する。 ・意識の低い生徒には教員からのアプローチでやる気を引き出す。	A A B	A	A	個別の支援が必要な生徒に対する体制づくり。
	・希望進路の実現に向けた指導の充実。	・進路指導部及び学科・各教科と連携して個人面談や三者面談を計画的に行い、進路実現に向け主体的に行動させる。 ・一人ひとりの進路希望を把握して、それぞれに応じた指導をし、年度当初より小論文の個別対策も行う。 ・生徒に的確な情報を提供し、進路希望の明確化を図る。また、早期に対策を始めさせる。	A A A			A
事務室	・適切な会計処理	・会計処理について法令順守を徹底するとともに節減を実施し、限られた予算の効率的な執行を行う。	A	A	A	光熱水費の削減に伴う予算の確保を模索する。
	・農場業務の充実	・教員とも連携し、不祥事防止に努める。 ・技師(農業技術職員)の業務の充実と教員との連携により、更なる農場の管理、運営の充実を図る。 ・学校での生産物販売において、厳密な法令順守の手続きを行うとともに不祥事防止に努める。	A B A			A

A	○地域との交流があり、良い評判をきく。産学官でさらに連携を深め、地域で学び地域で育てる学習環境の構築に努めていただきたい。また、本校生徒が地域の小中学校等で指導者として活躍し、学校の広報にも繋げて頂きたい。
B	○大変難しいデリケートな問題ですが、生徒の自立に向けた支援となるよう、教員全体の情報共有を今後も大切にしてもらいたい。
B	○専門高校なので入学する時点で自分の将来をすでに見据えている生徒が数多くいると思いますので、就職や進学の情報も早い段階から提供し、生徒の進路意識の向上にさらにつなげていただきたい。
A	○様々な取組により、生徒の可能性を引き出していただいているようですが、今後も継続して少しでも学力や社会性を高めていただき、進路実現につなげられるよう指導していただきたい。
A	○進路に向けて今後も様々な取組を検討していただき、進路実現に向けて主体的に生徒が進められるような意識づくりを行っていただきたい。来年度は卒業時に全ての生徒の進路実現を叶えていただきたい。
B	○学校の教育活動の遂行には事務室の理解と協力が不可欠なので、今後も協力・連携して学校の発展に尽力をお願いしたい。

評価項目以外のものに関する意見

地域における学校の評判がとてよく、今後も生徒の学びの保証を最優先に考えた地域に根ざした開かれた教育を展開していただきたい。

自己評価及び学校関係者評価を踏まえた今後の改善策

・園芸活用科および動植物活用科の全学年完成年度における教育課程の推進のため、教育内容・活動および施設設備の充実を図る。また、生徒募集に向けて、広報課の年間広報計画のもと、HPはもちろんインスタグラムなどにより不断の広報活動を推進していく。
・卒業後の実社会を見通した3年間のキャリア教育プランの作成と推進を図る。生徒の希望する進路(進学・就職)を実現するため、各学年に応じた段階的な意図的・計画的な進路指導を実施しながら100%の進路実現を目指す。また、国公立大学農学部への校内指導体制の確立のために、進路指導部を中心に研究を進める。
・本年度月1回の農産物販売会を実施し、全学科における販売実習の学び場を確立した。実践販売をとおして生産物の品質の向上、および商品開発の促進を図ることにより、実践的な知識・技術を教師自身が身につけ、指導内容のレベルアップにつなげる。